

2月12日 年間第6主日

## み国の生活

マタイによる福音書 5章 20～34、37節\*

<sup>20</sup>「言うておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていなければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない。」

<sup>21</sup>「あなたがたも聞いているとおり、昔の人は『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』と命じられている。<sup>22</sup>しかし、わたしは言うておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。兄弟に『ばか』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる。<sup>23</sup>だから、あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、<sup>24</sup>その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。<sup>25</sup>あなたを訴える人と一緒に道を行く場合、途中で早く和解しなさい。さもないと、その人はあなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡し、あなたは牢に投げ込まれるにちがいない。<sup>26</sup>はっきり言うておく。最後のクアドランスを返すまで、決してそこから出ることはできない。」

<sup>27</sup>「あなたがたも聞いているとおり、『姦淫するな』と命じられている。<sup>28</sup>しかし、わたしは言うておく。みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである。<sup>29</sup>もし、右の目があなたをつまづかせるなら、えぐり出して捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に投げ込まれない方がましである。<sup>30</sup>もし、右の手があなたをつまづかせるなら、切り取って捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に落ちない方がましである。」

<sup>31</sup>「『妻を離縁する者は、離縁状を渡せ』と命じられている。<sup>32</sup>しかし、わたしは言うておく。不法な結婚でもないのに妻を離縁する者はだれでも、その女に姦通の罪を犯させることになる。離縁された女を妻にする者も、姦通の罪を犯すことになる。」

<sup>33</sup>「また、あなたがたも聞いているとおり、昔の人は、『偽りの誓いを立てるな。主に対して誓ったことは、必ず果たせ』と命じられている。<sup>34</sup>しかし、わたしは言うておく。一切誓いを立ててはならない。天にかけて誓ってはならない。そこは神の玉座である。」

<sup>37</sup>「あなたがたは、『然り、然り』『否、否』と言いなさい。それ以上のことは、悪い者から出るのである。」

\* マタイによる福音書 5章 17～37節を通して読むこともできる。

他の朗読：シラ 15:15～20 詩編 119:1, 2, 4, 5, 17, 18, 33, 34 I コリント 2:6～10

## Lectio …読む

山上の説教の本日の箇所の中で、イエスはご自身が弟子たちに課す要求と、律法学者やファリサイ派の人々によって教えられるユダヤ教の要求とを対比させています。イエスは、倫理と宗教的な決まりごとを守るだけでは十分でなく、むしろ弟子たちは神が要求していること全てを行うように集中しなければならないと教えています。

これらの箇所の中でイエスは、怒り、争い、強い欲望、離婚そして誠実さといった説得力のある分野に触れています。

イエスの教えは、私たちの考えや感情を行動として表に出してしまう前に制御する必要があると説い

ています。イエスは分かりやすくするために大いに誇張しています。ですから、目をえぐり出したり、右手を切ってしまうことを言葉通りに受け取るのではなく、罪深い行動につながるかもしれないという考えに対しては、容赦のない態度で臨まなければならないことを説明している、と理解するべきです。罪と共に生きることはできないのです。私たちは完全に、かつ、可能な限り早急に罪の行いから離れなければなりません。

## Meditatio …黙想する

イエスの教えは生身の人間のもろさを並べています。正しい生活は正しい態度から始まります。イエスが述べているどの分野が、あなたにとって一番挑戦的でしょうか。

あなたには和解する必要がある人が誰かいるでしょうか。

罪につながるかも知れない考えや感情と、あなたはどうか向き合っていますか。

## Oratio …祈る

今日の福音を神の前に謙虚に持って行きましょう。神の言われることに耳を傾けながら、あなたの祈りを導かれるままに任せてみましょう。

## Contemplatio …観想する

詩編 119 編の今日の箇所をゆっくりと読んでみましょう。節が終わるごとに少し立ち止まり、次に進む前にその節について黙想してみましょう。